



県内主要産業の動向

2019年8・9月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	19年7月	19年8月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は総じて低調。レストランなど業務用、個人向けともに伸び悩んでいる。産地を取り巻く環境は厳しいが、首都圏等で開催される即売会や展示会に積極的に参加して販路拡大を目指す企業もみられる。また、東京五輪で製品が使用されることは産地PRに繋がると期待の声も多い。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は総じて低調。機能性の高い家庭用の調理器具やホテル向け厨房機器など一部に動きがみられるものの、全体では盛り上がり欠ける。需要喚起に向けて新商品の開発や展示会等での販路拡大に力を入れる。一方で、増税後の消費全体の落ち込みを懸念する声も聞かれた。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、先端工具やレンチ類など建築関連工具類を中心に堅調ながら、稼働日数の関係で7月比減少。建築需要は弱含み、自動車工場向けも低調であり先行きに不安を抱える。輸出は、東南アジア向けを中心に復調。各業者とも製品価格改定が一応決着し採算改善が期待される。
電子部品 ・デバイス	◐	◐	→	受注は弱含み基調。半導体製造装置向けは、海外需要の落ち込みが続いている。携帯端末向けは、スマホの販売不振から低調に推移。車載や医療機器向けも伸び悩んでいる。米中摩擦から先行き慎重姿勢が強いが、スマホの新製品発売を受けて、今後の受注増に期待する声もある。
鋳物	◐	◐	↘	受注は総じて前年割れで推移。鉄道、船舶など一部で堅調ながらも、工作機械を中心に内外需を問わず減速。これまで好調の車載器関連も需要が一巡し、落ち着きがみられる。足元では、受注製品の納期延期が囁かれるなど、先行きの不透明感が高まっている。
金型	○	○	→	受注は横ばい水準。自動車関連では車載器が低調ながらも、EVや燃料電池など新たな分野で動きがみられた。建築関連は五輪需要が一巡したものの、耐震化など国土強靱化に伴う需要が堅調。先行きは、国内の投資需要や海外経済の動向などから見方が分かれる。
一般機械	○	◐	→	受注状況は、米中の貿易摩擦の影響による環境悪化が鮮明になってきた。国内企業の設備投資は航空機・宇宙産業関連で動きがみられるものの、全体では様子見姿勢が強い。輸出ではIT・自動車関連を中心に中国に加えて米国向けも厳しさを増している。



業種	景況			コメント
	19年7月	19年8月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地の8月の生産高は前年を若干下回った。先染めなど比較的カジュアルな着物は引き続き堅調に推移しているが、後染めなどフォーマルな着物が前年割れとなった。足元では、各社が翌々年に向けた新作発表を開始。受注拡大に期待を寄せる。五泉産地は前年水準を下回って推移。
合織織物	●	●	→	端境期が続く。消費増税に伴う高級衣料の駆け込み受注はみられないが、一部では春夏物の受注が始まり、店頭での盛夏品好調を受け、例年並みを確保している。足元では、生産の最盛期を前に、産地の独自性が高い見本製作に注力し、展示会を通じて新たな販路開拓に努めている。
ニット	●	●	→	秋冬物生産終盤期。消費増税の駆け込み需要はほとんどみられず、受注全体としては前年割れの状況。足元では例年より早く春物の受注期に入ったが、景気の不透明感からアパレル側の慎重姿勢が続いている。一方、気温の低下により店頭では初秋物が売れ始めており、追加受注に期待する声が聞かれた。
木工家具	●	●	→	業務用では、夏場商戦向け受注に動きがなく苦戦。飲食店関連の大型受注もなく相応規模の受注にとどまる。家庭用も、大型製品の不振が続く。商工団体は地元ブランド推奨品として県外での展示会を開催。組合も恒例の地元販促イベントでの新しい取組や、県外の展示会にて製品PRを継続。
清酒	●	●	→	8月の出荷量は、県内向け・県外向けとも前年を下回った。猛暑やお盆休みの期間が例年より長かったことが影響し、スーパー向け・飲食店向けとも伸び悩んだ。酒類別では普通酒が不振。清酒は軽減税率の対象外であるため、増税後の需要の落ち込みを懸念する声強い。
米菓	◐	◐	→	8月は、あられ・おかき類が猛暑の影響から低調となり、売上げは前年をやや下回った。足元では、新潟県産の塩麴を使った新商品などが伸び、前年並みに持ち直しつつある。消費増税の影響については、軽減税率の対象となるため影響は軽微との声が多く聞かれた。
建設	◐	◐	→	公共工事は、今年度予算分の工事進捗により増加基調。発注者別では、国・市町村で伸びがみられる。民間工事は、製造業・運輸業などで底堅く推移している。住宅建設は、本年3月までの契約分（旧消費税率が適用）の着工が一巡したことにより、持家で落ち込みがみられる。
大型小売店	◐	◐	↗	8月の売上は、猛暑により夏商材の食料品や家電などを中心に前年を上回ったが、衣料品はセール効果も乏しく特に高額品が不振。足元では、消費増税の影響による動きが前回に比べて悪いため、需要喚起への取組強化がみられる。また、キャッシュレス決済導入も増加している。